

香川県総合防除実践指標（大麦（二条大麦・はだか麦）・小麦）

No.	予防	判断	防除	実践項目 対象病害虫・雑草	実践ポイント	点数	チェック欄	
							実施目標	実施状況
1	○			健全種子の選別	病原菌（黒節病、裸黒穂病、斑葉病）に侵されていない健全な種子を使用する。	1		
2	○			縮萎縮病、萎縮病対策	大麦：縮萎縮病(BaYMV, BaMMV)の抵抗性または耐病性品種を導入する。 小麦：萎縮病(SBWMV)の抵抗性または耐病性品種を導入する。	1		
3	○			本圃周辺の管理	アブラムシ類、ムギダニの侵入防止のため、周辺雑草を除去する。	1		
4	○			種子消毒	農薬による種子消毒、あるいは温湯浸漬法による種子消毒を実施する。	1		
5			○	雑草対策	中耕や土入れ等の機械除草並びに夏季の2か月以上の湛水または水稲作付けを組み合わせることにより、除草剤の散布回数を必要最小限とする。	1		
6			○		除草剤を使用する場合には、魚毒性の低い農薬を使用するなど環境への影響に配慮して薬剤を選択する。	1		
7		○		病害虫発生予察情報の確認	病害虫防除所が発表する発生予察情報入手し、確認する。	1		
8		○		防除要否の判断	うどんこ病、さび病、アブラムシ類等の発生は圃場間差、年次変動が大きいので、発生状況を確認して早期防除を行う。	1		
9	○			赤かび病対策	窒素肥料の過度の使用は避ける。	1		
10		○	○		適期防除を行う（二条大麦：蒴殻抽出期とその7～10日後、はだか麦・小麦：開花始めとその7～10日後）。	1		
11	○			黒節病対策	前年度多発圃場では作付けしない。	1		
12	○				早播きを避ける。	1		
13	○			株腐病対策	前年度多発圃場では作付けしない。	1		
14	○				菌密度を低下させるために深耕を行う。	1		
15	○				早播きを避ける。	1		
16			○		根際から伸展してくる病害なので、農薬を使用する際は株元にかかるように散布する。	1		
17	○			赤かび病、黒節病、株腐病共通対策	圃場の排水対策を徹底する。	1		
18		○	○	農薬の使用全般	十分な薬効が得られる範囲で最少の使用量となる最適な散布方法を検討した上で使用量・散布方法を決定する。	1		
19		○	○		当該病害虫・雑草に効果のある複数の農薬がある場合には、周囲に飛散しにくい剤型を選択する。	1		
20		○	○		適切な飛散防止措置を講じた上で使用する。	1		
21		○	○		作用機種の異なる農薬をローテーションで使用する。さらに、当該地域の病害虫において強い薬剤抵抗性の発達が確認されている農薬は使用しない。	1		
22		○		作業日誌（重）	種子消毒の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等の栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。	1		
(重)栽培管理状況について記録することは重要な実践ポイント。					22点、22ポイント	合計点数		
						合計実践ポイント数		
						評価結果		